

松は昔から行事や祝事に用いられ、建築材などに利用されてきた日本人に最も馴染みのある木のひとつ。日本では樹皮の赤いアカマツと樹皮の黒いクロマツが代表格です。アカマツは広く山地に見られるのに対して、クロマツは海岸部を中心に分布します。葉は針状。アカマツは先端を触ってみると細くて柔らかく痛くないですが、クロマツの葉はアカマツより大きく固く、とても痛くて凶器のようです。アカマツはその優美さから「雌松(めまつ)」「女松」、クロマツは雄々しさから「雄松(おまつ)」「男松」と呼ばれています。立派なアカマツ林が有名な県民の森ですが、クロマツは第二駐車場の横に位置する「都道府県の森」に植栽されており、アカマツと比べて観察することができます。



【左】クロマツの樹皮 【右】アカマツの樹皮



【左】クロマツの葉 【右】アカマツの葉



「都道府県の森」のクロマツ 2024/6/1



【昨年受粉した若い実】アカマツやクロマツの実  
は受粉したその年には熟さず、翌年の秋に熟す2  
年型。 2024/4/8



【雄花】多数の雄しべがらせん状に付き、大量  
の花粉を出す。 2023/5/19



【実】2年目の秋に熟し、種を飛ばしたあとも枝  
に残ることも多い。実はアカマツよりクロマツ  
の方が大きく立派。 2021/12/5